

1 探究の過程を踏まえた授業改善

○授業改善の視点 (学習指導要領改訂の基本的な考え方)

- ・科学的に探究する学習を充実
- ・日常生活や社会との関連を重視

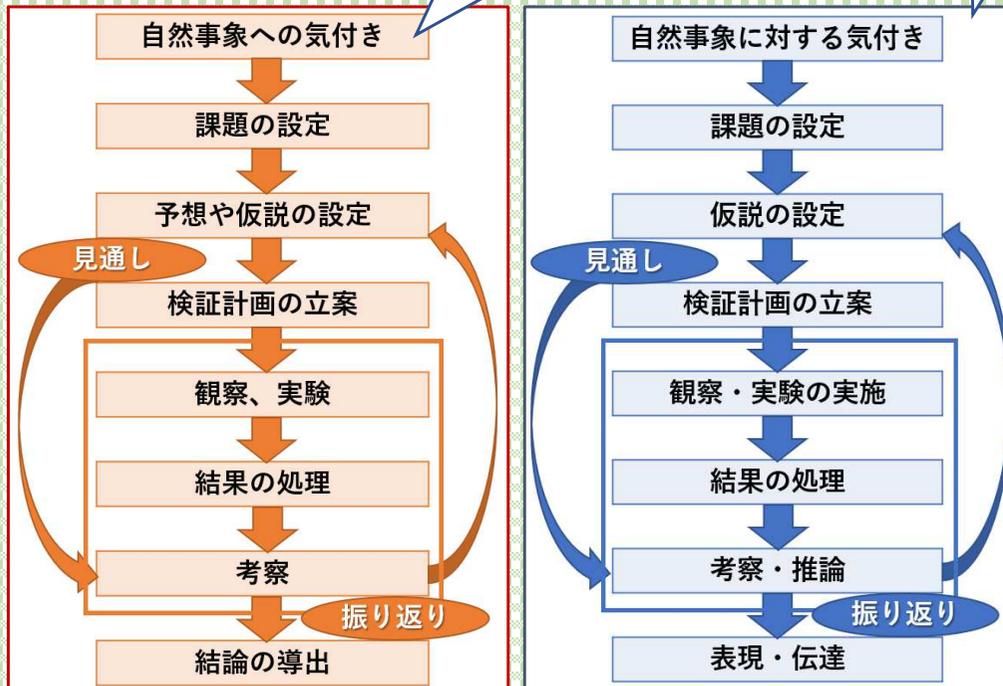
探究の手法をとらず、あえて教え込む指導をする場合もあります

○探究の過程の例

小学校・義務教育学校 (前期)

どの場面を授業しているのか、意識しながら授業を進めましょう

中学校・義務教育学校 (後期)



- ・いずれの学校種でも、8つの段階に分かれ、大きな違いはない。
- ・探究の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、その過程の一部を扱ってもよい。
- ・「見通し」と「振り返り」は、学習過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程で行うことも重要である。

2 1人1台端末がある新しい理科授業の創造

○ICT (タブレットの活用) の位置付け

- ・理科授業の一層の充実を図るため有用な道具 (「観察、実験の代替」のためではない)

- ・1人1台端末は、学級閉鎖や休校でのオンライン授業対応ができる、ということでは収まらない能力を秘めている。
- ・「観察、実験の代替」としてではなく、理科の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。
- ・教室 (理科室) でのリアルな学びの場 (従来の学校がもつ機能) と、タブレットでつながった学びの場 (オンラインの情報通信がもつ機能) の2つが、同時並行で存在している。

○タブレットを活用する際に求められる観点

理科で育成する資質・能力を踏まえて、活用する場面を適切に選択する。

- ・学習支援アプリで即時表示すると、時間配分の効率化ができ、効果的な協働学習ができる
- ・予想や考察で表現する文字量が増える
- ・児童、生徒の思考過程や成果物を画面で可視化できる

○ノート・ワークシートからタブレットに!

1人1台端末の持続可能な活用のため踏み出そう!

まずは、試す → よければ、続ける

新学期にチャレンジしよう

それで、残ったものが、これからの授業の形となる

参考資料

○「StuDX Style(慣れるつながる活用)」(文部科学省) <https://www.mext.go.jp/studxstyle/index.html>

○「StuDX Style(各教科等での活用)」(文部科学省) <https://www.mext.go.jp/studxstyle/index2.html>